

1. 交通環境学習に関する寄稿

(1)「個人－社会の視野を持たせ、個人的“合理性”の意味を問い直す学習を」
【帝塚山学院大学人間科学部 教授 工藤 文三】

現代社会では、個人の行為は私的な性格を持つように見えても、社会の在り方につながっているものがほとんどである。どのお店でどのような買い物をするのか、日常のゴミをどのように分別して捨てるのか、どのような交通手段を使って通学や通勤、旅行等をするのか等々である。一方、人々の行為の選択は、様々な条件で制約されている。一つは、当該の個人の状況である。例えば、高齢の方や病気の場合、幼児を連れている場合等は、当該の条件の中で行為が選択される。二つ目は、行為の選択幅に関わる環境条件である。例えば、地域に選択できるだけの商業施設や交通手段がない場合、その条件の中で選択せざるをえない。三つ目は、時間の制約、費用の制約である。その他、習慣や好み、伝統等の文化的要因も選択の条件である。

これらの諸条件の制約の中で人々は行為を選択しているが、交通手段の場合を例にあげると、行為の選択の要素として次のようなものが想定される。ア 目的 イ 所要時間 ウ 経費 エ 身体的負担 オ 天候等の環境条件、カ 安全性。アは、通勤、通学と通院、買い物、運搬等では交通手段の選択は異なってくる。人は、これらの諸条件を当該の状況に合わせて勘案し、合理的に選択していると思われる。時間よりも経費を重視する人もいれば、経費がかかっても、身体的負担を考慮する人もいる。それらは、個々人の置かれた状況の中でのより合理的な行動といえる。

ただ、ここで考慮しなければならないのは、個人レベルでの合理的行動がそのまま集積した場合、どのような社会の在り方につながっていくかという視点である。交通渋滞、混雑、廃棄物の処理、環境問題等は、このような個人－社会問題といえる。それではこれらの個人－社会問題を、どのように解決していけばよいのか。一つは、何らかの社会的規制によって、個人の行動を制約し、個人－社会問題の調整を行う方法である。極端な例は、自動車の使用を条例等で一定程度規制する方法である。第二は、経済的インセンティブによって調整する方法である。自動車の使用にかかわる税率を調整したり、通行料を科したりする施策である。第三は、学習によって個々人の選択の“合理”性の吟味検討を促すことである。

教育に求められる課題は、ここでみたように個人-社会問題の視野を持たせること、問題解決の方策を考えさせること、個人的選択の“合理性”の内容を吟味させることにあるといえよう。今後私たちの社会が、個人の自由な選択を尊重しながら、且つ、集合的行為の結果を通して不利益がもたらされない社会となっていくには、何が必要なのか、不断に問い続け、考えさせるようにしたいものである。

※本寄稿は、下記URLからファイルとしてダウンロードしていただけます。

http://www.mm-education.jp/magazine/MMedu_mailmaga9-1.pdf

(2)「交通環境学習で 歩いて楽しい御嵩町づくりを！」

【御嵩町教育委員会】

御嵩町の環境教育は、平成20年度から交通エコロジー・モビリティ財団による交通環境学習等支援事業により再構築され、意欲的な実践へと変容してきた。御嵩町環境基本計画を基に、交通環境学習の視点を「交通環境学習で歩いて楽しい御嵩町づくりを！近いところは、歩くか、自転車で行きましょう。クルマの使い方を見直しましょう。」と設定し、実践に努めてきた。各学年の教材は、交通環境学習の視点に基づき、現行カリキュラムの中から洗い出し、複数年継続できるようにしている。

実践事例として、生活科では「まちたんけん」の学習で、「歩く」ことの価値を実感させている。4年社会科「きょう土に伝わる願い～ぼくらの電車いきいきプラン～」では、先人の鉄道敷設の願いや努力を知り、公共交通機関の必要性に気付かせている。5年社会科「自動車をつくる工業～御嵩からのエコ大作戦～」では、エコドライブの実践やエコカーの必要性を発信している。6年総合学習では、中山道を歩き・調べ、歩くことにより発達した中山道や御嵩の今後について、自分の考えを発信している。交通環境学習のまとめは、参観日や御嵩町環境フェスタで展示や発表をして、地域に発信し高い評価を得ている。

今年度御嵩町は、国から「環境モデル都市」に選定された。低炭素社会を目指す交通環境学習の取組に一層弾みがついている。

※本寄稿は、下記URLからファイルとしてダウンロードしていただけます。

http://www.mm-education.jp/magazine/MMedu_mailmaga9-2.pdf

2. ニュース／トピック（取組みの実施結果や開催報告 等）

【交通環境学習関連の取組み】

●車いすや白杖体験を通じ、「心のバリアフリー」の大切さを理解してもらうために、中学生を対象とした教室を開催。（北海道札幌市）

<http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/sapporo/press/130930barifuri.pdf>

●岡山県倉敷市は、平成 25 年 9 月 10 日から平成 26 年 2 月 21 日にかけて計 12 回、市内の複数の小学校の生徒を対象に「バス教室」を開催。（岡山県倉敷市）

<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/dd.aspx?menuid=18971>

●福島市立鳥川小学校 4 年生（59 名）を対象に地球温暖化防止への取組みの一環として、「交通と環境の関係」を考えてもらうための「バスの乗り方教室」を開催。（東北運輸局）

<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/kk/kk-ecoclass/kk-ecoclass-index.htm>

●青森県八戸市は 8 月 29 日、市内の路線バスや鉄道の乗り継ぎ案内などを行う公共交通アテンダント「はちなび娘」（愛称・はちこ）を講師に、子どもを対象としたバスの乗り方教室をスタート。（青森県八戸市）

<http://cgi.daily-tohoku.co.jp/cgi-bin/news/2013/08/31/new1308311602.htm>

●長野県須坂市は、9 月 8 日に「すぎか市民バスの乗り方教室」を開催。（長野県須坂市）

<http://blog.suzaka.jp/suzakacity/2013/09/09/p24556>

●東京都杉並区立高井戸小学校において、杉並区社会福祉協議会、京王電鉄バス、宮園自動車の協力のもと、9 月 17 日に「バリアフリー教室」を開催。（東京都杉並区）

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/s_tokyo/date/to_p130905.pdf

●9 月 20 日の「バスの日」にちなみ、群馬県の乗合バス 6 社は 9 月 22 日に前橋市児童文化センター・交通公園エリアで「バスフェア」を開催。

http://www.kan-etsu.net/publics/index/1/detail=1/c_id=3/page3=1/type014_3

[limit=10/](#)

●北陸信越運輸局では、誰もが高齢者や障がい者等に自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー社会」の実現をめざし、10月2日に新潟市立南中野山小学校で4年生77名を対象にバリアフリー教室を開催。(北陸信越運輸局)
http://www.tb.mlit.go.jp/hokushin/hrt54/barrier_free/minaminakanoyama_es.html

●東北運輸局は10月9日、福島市立鳥川小学校の4年生(59名)を対象に「バスの乗り方教室」を開催。(東北運輸局)
<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/puresu/ks131007.pdf>

●国土交通省は10月12日、大森学園高等学校2年生(40名予定)を対象に大田区社会福祉協議会、特定非営利活動法人福祉コミュニティ大田及び京浜急行バス(株)の協力のもと、「バリアフリー教室」を開催。(国土交通省)
http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/s_tokyo/date/to_p130930.pdf

●石川運輸支局では、白山市立鳥越中学校において、「バリアフリー教室」を9月19日、20日に開催。「車いすバスケットボール体験」「ノンステップバス体験・サポート体験」などに、白山市立鳥越中学校の生徒約74名が参加。(石川運輸支局)
<http://www.tb.mlit.go.jp/hokushin/ishikawa/press/2013/25barrierfree.pdf>

●四日市市は四日市市文化会館において、9月29日に「四日市市環境シンポジウム」を開催。グリーンフォトコンテスト表彰式、エコドライブ推進セミナー、四日市消費者協会によるファッションショーなどが行われた。(四日市市)
http://eco-yokkaichi.sakura.ne.jp/sblo_files/sympo/image/2013E59B9BE697A5E5B882E5B882E792B0E5A283E382B7E383B3E3839DE382B8E382A6E383A0-01.jpg

●福井県・交通まちづくり課は、9月30日から10月4日まで「クルマに頼り過ぎない社会づくりパネル展」を県庁舎1階の県庁ホールで開催。(福井県)
<http://www2.pref.fukui.jp/press/view.php?cod=5cWC9e13800687257Z>

●関東運輸支局では、大森学園高等学校において、大田区社会福祉協議会、特定非営利活動法人福祉コミュニティ大田及び京浜急行バスの協力のもと、10月12日に「バリアフリー教室」を開催。（関東運輸局東京運輸支局）

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/s_tokyo/date/to_p130930.pdf

●四国運輸局では、介助等の体験を通じて、バリアフリーについての理解を深めてもらい、ボランティア意識を醸成するとともに、公共交通機関であるバスへの理解と関心を高め、バス利用の促進を考える一つの機会とするため、西条市立楠河小学校を対象に開催。（四国運輸局）

<http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/newsrelease/2013/2013-1007-1042-5.html>

●近畿運輸局は9月22日、滋賀県長浜市において交通分野におけるCO₂削減の取り組みや心のバリアフリーを推進するため、子供を対象とした「エコ&バリアフリー教室」を開催。（近畿運輸局）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/press/files/1379462652.pdf>

●富山市で9月29日、公共交通を利用する機会が少ない大人から子どもたちまで、「クルマ」と「公共交通」のかしこい使い方について楽しく遊びながら学べるイベント「とやま公共交通ふれあいデー」を開催。（富山市交通政策課）

<http://toyama-raillife.jp/?tid=100062>

●富士市は10月19日、路線バスやコミュニティバス、電車といった公共交通を上手に乗り継いで、市内に設定されたチェックポイントやクイズポイントをめぐり得点を競う、ゲーム型公共交通体験イベント「親子ワンデー・トリップ・チャレンジャー」を開催。（富士市都市計画課）

<http://www.city.fuji.shizuoka.jp/hp/page000036500/hpg000036412.htm>

●枚方市は10月19日、公共交通を利用しながら、枚方市と交野市に設定したスタンプポイントを巡ってひらがなを集め、コトバを作る「のってスタンプラリー ～なぞのコトバをさがせ～」を開催。（枚方市）

<http://hirakata-kankyou.net/2013/08/29/2013stamprally/>

3. 取組み／イベント情報等（継続中もしくは今後の取組みやイベントの開催情報等）

●通勤定期で家族みんながおトクに！『ファミリーエコ割引』（静岡県）

土・日・祝日、年末年始に遠鉄バス全線・遠鉄電車全線で通勤定期券所持者の家族4名まで、通勤定期券区間内に限り一乗車大人100円・小人50円に割引

<http://entetsubus.lekumo.biz/news/2013/04/post-fb11.html>

●土曜・日曜・祝日・年末年始・夏休みに、大人が同伴する小学生以下（大人1人につき小学生2人まで）のバス・地下鉄などの料金が無料となるエコファミリー制度を実施（兵庫県神戸市）

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/project/traffic/ecomotion/page02.html>

4. 【イベント、フォーラム、セミナー等の開催案内】

●公共交通に親しむ日

日時：2013年11月2日（土）、3日（日）

主催：岡崎市、岡崎市交通政策会議

場所：公共交通ひろば（※乙川河川敷右岸会場）

<http://www.city.okazaki.aichi.jp/module17908.html>

●平成25年度交通環境セミナー

日時：2013年11月13日（水）

主催：一般社団法人神奈川県トラック協会、かながわエコドライブ推進協議会

場所：かなつくホール（JR東神奈川駅より徒歩1分）

定員：300名（先着申込順）

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f642/p703162.html>

●エコ モビリティ ライフ 県民の集い 2013

日時：2013年11月22日（金）

場所：愛知芸術文化センター 12階 アートスペース

主催：愛知県・あいちエコモビリティライフ推進協議会

募集期間：平成25年10月1日から11月14日まで

募集人数：250名（申し込み先着順）

<http://www.pref.aichi.jp/0000065197.html>

●平成25年度 公共交通シンポジウム in 中部

日時：2013年11月28日（木）

場所：ウィルあいち ウィルホール（4F）

主催：国土交通省 中部運輸支局・中部地方整備局

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/kisya013/kikaku1130927.pdf>

